



羅針盤

* 思えば2013年（平成25年）9月のこと、2020年の夏季オリンピック開催地として「東京」が選ばれ国を挙げての準備が始まりました。しかし、一昨年の突然出現したコロナパンデミックで状況は一変したまま、開催日が目前となっています。今でも開催の是非が問われていますが、この時期、この悲惨な巡りあわせの中でも、観客の有無とは関係なく、ワクチン効果信じてアスリートと運営関係者は会場に集まり始めています。催行ならば、オリパラを無事に終了させるため、何としても感染者を最小限に抑えることに全力を挙げて、心を合わせましょう。会場にはゆけなくても、ホームシアターでの観戦なら大声の応援も出来、臨場感も十分です。そして、大会でアスリートに授与される金銀銅のメダルは、全国各地から集めたリサイクル金属で作る国民参画型プロジェクト「都市鉱山から作る！みんなのメダルプロジェクト」が用意しました。「もったいない」を知る国として、廃棄物をメダルに蘇らせた日本の心「お・も・て・な・し」です。きっと心に残る大会になると思います。

Market Forecasts by Y. san -7月-

6月予測の自己評価 鉄スクラップ；× 銅；× アルミ；○

鉄スクラップ

6月は鉄スクラップ価格の指標となる東京製鉄宇都宮工場特級価格が、24日 久しぶりに1,000円/トン上がり、49,000円/トン。7月は中国の買い意欲旺盛であることや、日本の高炉がCO2削減を目指しスクラップの買い意欲が出ていることから上がると考えられます。

銅

6月はLME10,270ドル台/トン、国内銅建値1,170,000円/トンからスタート。中旬に国内銅建値1,060,000円/トンまで下がりましたが持ち直し、最終的には1,090,000円/トン。7月に関しては2020年3月以来の円安の状況が続いている為、上がると考えられます。

アルミ

6月はLME2,500ドル台/トンでスタートし、最終的には、2530ドル台/トンと僅かですが上昇。7月に関してはメーカーの買い意欲があるため、缶プレス、ウワ物共に上がると考えられます。

産業廃棄物

都内では事務所移転や閉鎖による残置物の廃棄物は増え、什器類は有価買取や、鉄スクラップで買いとれるものが多い中、雑ごみには火災を引き起こす100ライター、バッテリーの混入が非常に多く、選別しきれず火災を起こす危険性が懸念されます。火災になれば受入自体出来ません。

Topics

ごみ処理の状況と関係する法律の歴史（明治時代～廃棄物処理法制定以前）

廃棄物業界では最も馴染み深い法律「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（略して「廃棄物処理法」又は「廃掃法」）の成立した1970年（昭和45年）以前の我が国のごみ処理の状況と関係する法律の歴史を、主に環境省発行の「日本の廃棄物処理の歴史と現状」を参考に紹介いたします。

明治時代初期（1900年代前半）のごみの収集・処理

排出者が自己処理するか、民間のごみ処理業者が収集し、有価物の選別を行い、その売却で利益を得る商いをしていました。選別後のごみが空き地等へ投棄され不衛生な状態で堆積することが始まり、様々な伝染病が流行しはじめ、ごみ置き場を含む街全体の公衆衛生の向上が重視されるようになりました。

⇒「汚物掃除法」制定…現在の「廃棄物処理法」の元です。

「汚物掃除法」【1900年（明治33年）】

- ① ゴミの収集・処分は市町村の義務とし、ごみ処理業者を行政の管理下に置きました。
- ② 「塵芥はなるべくこれを焼却すべし」として、ごみ焼却が国の主要な処理方法と位置付けられ、多くは「野焼き」が行われていました。（焼却施設が普及しておらず、高価な焼却炉を作っても煙害問題の紛争が起きていました。1933年「深川煤煙騒動」等）

第二次世界大戦終結（1945年（昭和20年））以降

経済発展及び都市への人口集中に伴い、都市ごみ急増への対応が急務となりました。

* ごみの河川・海洋への投棄や野積みによる、ハエや蚊の大量発生・伝染病の拡大等の公衆衛生問題が生じ、市町村の清掃事業と、国や都道府県、住民間の連携整備に、都市ごみ問題拡大で行き詰まりを見せ、清掃行政改革が求められました。

1954年（昭和29年）に「清掃法」を制定

市町村がごみの収集・処分を行う仕組みに加えて、国と都道府県が財政的・技術的援助を行うこと、住民には市町村が行う収集・処分への協力義務を課すことなどを定めました。

1963年（昭和38年）「生活環境施設整備緊急措置法」を制定

* 生活環境施設整備五カ年計画」を策定。各都市でごみ焼却施設の導入が促進され、また、自治体と民間の協働で「ごみ収集作業の機械化」が推進されました。

* 各種産業から排出の廃棄物（市町村で処理）は、技術、財政、運営等で、適切な処理体制が求められていました。

1955年～ 高度成長期

* 所得の増加、大量販売店の登場で、大量生産・大量消費型の経済構造が進展し、都市ごみは急速に増加・多様化しました。事業所からは各種廃棄物、建設廃材（土砂・ガレキ等）が大量に排出され、その一部は適切な処理をせずに廃棄され、有機水銀

Series

私のふるさと(1)



総務人事部 打田 明絵

はじめまして、総務人事部の打田と申します。今回から4回に亘ってこのコーナーを担当させて頂くことになりました！

おしゃべりは大好きですが、文章を書くのは学生以来で、かつ苦手の苦手分野なので悪戦苦闘しながら執筆しています。どうか見守るような気持ちでお付き合いください。よろしくお願いたします。

そんな私は、普段本社事務所の窓口の後方で、従業員の皆さんの勤怠管理や給与計算、労務関係の手続きなどの業務を担当しています。東港金属に入社してから丸3年が経ちました。前職は全く異なる業種・職種だったので、何もかも初めてのことばかりでしたが、周りの方々に助けていただいたお陰でここまでやってこれたと感謝しています。おおよその業務は出来るようになったかな～！思っていると制度や仕組みが変わったり新しい問題が飛び込んできたりと、なかなか油断ならない毎日ですが、部署や勤務地にかかわらず沢山の方とコミュニケーションを取りながら日々楽しくお仕事と向き合っています。今回、羅針盤のお話を頂いた時にはとっても驚きました。正直、私に回ってくることは無いと思っていたので(笑)、「えっ！私！？」が一番の感想でした。何を書こうか？としばらく考えたのですが、夢中になるほどの趣味もなく、面白いエピソードも思いつかなかったもので、私のふるさとについてお話しようと思います。

私は三重県鈴鹿市で生まれました(有名なレーシングコースの鈴鹿サーキットがあるところですから、名前をご存知の方も多いでしょう)。小学校低学年の時に父の仕事の都合で群馬県前橋市に引越しました。その後、進学を機に私は上京し、両親はいくつかの街を転々として今はまた三重県で暮らしています。そんなこんなで生まれたのも、今帰省する先も三重ですが、学生時代を過ごしたのは群馬なので、「どこ出身？」「地元どこ？」と聞かれると「三重生まれ群馬育ちです！」とややこしい返事をするようになっていました。馴染みのあるほうで覚えてもらえるので、私にとってはベストアンサーです。方言や文化の違いなどを知らない頃に引越したので、幼いながらに戸惑うこともありましたが、大人になるにつれてそれすらも楽しめるようになりました。共通点といえば、自然豊かで電車の本数が多いところと、遊ぶ場所といえばイオン！なところでしょうか(笑) ちょっと残念な感じも嫌いなところですね。

次回は生まれ故郷の三重県についてお話させていただきます。

▲ カドミウム等の有害廃棄物が公害を引き起こし、周辺住民に甚大な健康被害をもたらしました。

このような状況を打破するために、産業廃棄物を盛り込んだ廃棄物全体の処理責任や処理基準を明確化し、廃棄物処理の基本体制を整備するため、1970年（昭和45年）に清掃法を全面的に改正し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を制定しました。